

また慢性の肝障害とくにアルコール性肝障害の合併が目立った。

診断は DIC-CT あるいは MRCP で肝内胆管と嚢胞の関係をみることに必須である。

肝嚢胞は日常臨床でよくみられる疾患であり、そのなかには HPBC もかなり含まれるものとおもわれるが、逆に HPBC と診断しても単に胆管に接する嚢胞かもしれない。ここが診断の問題点である。

9 Hanging maneuver を用いた生体肝移植ドナーにおける肝左葉切除

北見 智恵・黒崎 功・横山 直行

佐藤 好信・畠山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

2001 年に Belghiti により報告された hanging maneuver (HM 法) は、肝葉切除において止血効果の点で有用であるとされている。今回当科で施行されたドナー肝左葉切除 32 例を対象とし、確立された術式である生体肝移植ドナー肝切除において HM 法の有用性を検討した。HM 法 14 例、非 HM 法 18 例で、平均手術時間はそれぞれ 318 分、370 分 ($p = 0.89$)、平均出血量 411.1ml、562.8ml ($p = 0.77$)、平均入院期間 14.6 日、15.7 日であった。合併症は非 HM 法の術後胆汁漏 1 例のみであった。HM 法は出血量を軽減する傾向が認められ、また肝切離の方向性を把握する上でも有用であった。

10 切除不能大腸癌 H3 症例に対する時間治療 (chronotherapy) の経験

宗岡 克樹・白井 良夫*・横山 直行*

若井 俊文*・小川 洋*・畠山 勝義*

新津医療センター病院外科

新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器・

一般外科学分野 (第一外科)*

【目的】夜間に 5-FU を投与する時間治療は、副作用を軽減することで投与量を増加させ、抗腫

瘍効果の増強を期待する治療法である。本研究の目的は、5-FU を用いた時間治療が、切除不能大腸癌両葉多発肝転移 (H3) に対して有効か否かを検討することにある。

【方法】対象は切除不能と判断された大腸癌 H3 症例 10 例であった (男/女 4/6 例、55～81 才)。原発は結腸 8 例、直腸 2 例であった。時間治療として PMC 療法 (週 1 回 5-FU 600mg/m² を 9 時から 24 時間かけて静注し、UFT 400mg/day 週 5～7 日間経口投与を併用) を外来で施行した。SD の場合には 5-FU の投与量を段階的に 1500mg/m²/24h まで増量した。5-FU 投与日に血清 5-FU 濃度 (ng/ml) を測定した (HPLC 法)。治療期間は 4～21 か月 (中央値 12 か月) であった。

【結果】PR は 6 例、SD は 4 例であった (奏効率 60%)。Cmax が 600ng/ml 以上となっても PR とならない症例は 3 例で、いずれも前治療歴を有していた。Grade 3 以上の副作用は認められなかった。

【結論】5-FU を用いた時間治療は切除不能大腸癌肝転移に有効である。

11 多施設共同研究による膵癌切除例に対する補助化学療法：中間報告

黒崎 功¹⁾・土屋 嘉昭²⁾・青野 高志³⁾

河内 保之⁴⁾・二瓶 幸栄⁵⁾・伊達 和俊⁶⁾

小山俊太郎⁷⁾・横山 直行¹⁾・北見 智恵¹⁾

清水 武昭⁴⁾・畠山 勝義¹⁾

新潟膵癌補助化学療法研究会

(第 1 次、第 2 次)

新潟大学大学院医歯学総合研究科

消化器・一般外科学分野¹⁾

県立がんセンター外科²⁾

県立中央病院外科³⁾

厚生連長岡中央総合病院外科⁴⁾

鶴岡市立荘内病院外科⁵⁾

新潟労災病院外科⁶⁾

県立新発田病院外科⁷⁾

ゲムシタピンは切除不能膵癌に対する症状緩和効果や予後の改善などの点から高く評価されてい